

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-3 地域情報化の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

情報政策課長 小仲 靖子

電話番号

0852-22-6339

事務事業の名称	I T 利活用促進事業	
目的	(1) 対象	県民、県内企業
	(2) 意図	I C T 化の意識を高め、日常生活等において、積極的に I C T を活用してもらう。
事業概要	○地域の情報リテラシー向上事業 インターネット利用者の拡大を図るために、講習会の開催など地域で継続的に学習できる環境の整備を行う。 ○「島根あいてい達者」知事表彰 I T 活用の重要性を周知し、高齢者が I T にチャレンジする「元気」と「勇氣」をもってもらうために、I T 活用に積極的に取り組む高齢者に知事表彰を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	ブロードバンド契約者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		158,000	167,000	176,000	185,000	
式・定義	ブロードバンド・サービス契約者数（総務省発表）		実績値	149,007	166,687	175,969	202,565		
			達成率		105.50	105.40	115.10		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費 (b) (千円)	12,806	13,425
うち一般財源 (千円)	12,806	13,425

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ブロードバンド契約者数は平成26年12月末で202,565件となり、前年同期と比べると約15%（26,596件）の増となっている。
- 主に中高年層（50才以上）の情報リテラシー向上を図るため、益田市、飯南町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町の5地域でタブレット端末を利用したインターネット講習を行い、合計201人が受講した。また、インターネットに関する相談会や体験会も実施した。
- あいてい達者知事表彰では応募者8名（個人7名、団体1名）のうち、6名（個人5名、団体1名）の方を知事表彰した。
- インターネット利用率（総務省：通信利用動向調査）は、75.6%（H25年度は72.6%）。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 超高速通信サービスは、県内ほぼ全域で利用可能となり、多様なブロードバンド・サービスが提供されるようになったことで、契約者数が増加した。
- インターネット利用率は75.6%と前年（73.6%）に比べ2%上昇した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- インターネット利用率は前年に比べ上昇しているものの、全国平均（82.8%）を下回っている。
- あいてい達者の受賞者は松江市や出雲市等の都市部に集中しており、隠岐地域や西部地域等で少ないなど地域に偏りがある。

②困っている状況が発生している「原因」

- インターネット利用率を世代別に見ると50代で53%、60代で34%であり、高齢者層の利用率が低い（H23年度県民アンケート調査）。
- あいてい達者の表彰対象者となる地域で活動を行っている個人や団体に対して、表彰に関する周知がまだ十分に行き届いていない。

③原因を解消するための「課題」

- 高齢者にインターネットを利用してもらうためには、情報リテラシーの向上を図る必要がある。
- あいてい達者については、これまで受賞者が少ない地域において、応募者の掘り起こしを図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 高齢者のインターネットの利活用を広げるために、民間によるパソコン教室があまりない地域において、I C T 端末の操作方法やインターネット等に関する身近な地域で継続的に学習できる環境の整備に取り組む。具体的には、初心者インターネット等に関する指導できる「I T リーダー」の養成を行う。
- あいてい達者については、これまで受賞者が少ない地域において、重点的に P R することにより応募者の掘り起こしを行う。また、受賞者の該当市町村や地域の公民館等に周知することにより、受賞者の活動の場を広げたり、周囲の高齢者のチャレンジする気持ちを奮い起こす。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）